

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語 I B
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	4	
教科書/教材	〔教科書〕 Prominence English Communication I (東京書籍), 〔参考書・補助教材〕 Prominence English Communication I ワークブック [スタンダード] (東京書籍), 夢をかねる英単語 新ユメタン (0) (アルク), What's up? (桐原書店), 総合英語 be 3rd Edition, 総合英語 be 3rd Edition English Grammar 46, コンパスローズ英和辞典(研究社)				
担当教員	仮屋 衣里				
到達目標					
1. 語彙と文法知識 2. 聞くこと 3. 読むこと 4. 話すこと 5. 書くこと					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	体系的に理解した語彙項目や文法項目を到達目標2～5の理想的な到達レベルの中で活用することができる。	教科書や副教材に出現する語彙や文法項目の意味や構造について体系的に理解し再生できる。	教科書や副教材に出現する語彙や文法項目の意味や構造について理解することができる。		
評価項目2	より実生活に近い題材やレベルの教材の内容や意味について理解し、それについて適切な反応を行うことができる。	与えられた課題や対話などの内容や意味について理解し、それについて適切な反応を行うことができる。	授業或いは自学自習で扱われる教材の内容について理解することができる。		
評価項目3	より実生活に近い題材やレベルの教材の内容や意味について理解し、それについて適切な反応を行うことができる。	与えられた課題や文章などの内容や意味について理解し、それについて適切な反応を行うことができる。	授業或いは自学自習で扱われる教材の内容について理解することができる。		
評価項目4	より実生活に近い題材やレベルの教材の内容や意味について理解し、それについて適切な反応を口頭で行うことができる。	与えられた課題や指示に沿った内容の文または文章を口頭で発表することができる。	授業或いは自学自習で扱われる教材の内容や与えられた指示通りに音声で口頭で再生することができる。		
評価項目5	より実生活に近い題材やレベルの教材の内容や意味について理解し、それについて適切な反応を記述で行うことができる。	与えられた課題や指示に沿った内容の文または文章を書くことができる。	授業或いは自学自習で扱われる教材の内容や与えられた指示通りに語句や文を再生することができる。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英文を読む・書く・聞く・話すための力を伸ばす。辞書を活用して自力で英文読解や英作文ができることをめざす。英語を使った学習活動を通して社会や自分のことに目を向け、考える力を付ける。				
授業の進め方・方法	後期開講の英語 I Bと共に本校での英語学習の最初の段階で修得すべき科目として位置付けている。学修すべき内容は英語 I Bへ引き継がれる。				
注意点	予習・復習を十分にを行い、語彙力・構文理解力の強化と内容理解に努めること。英語でのコミュニケーション能力向上のため授業の殆どは英語で行うので、授業中は英語でのコミュニケーションに努めること。				
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	注意を引く、理由を述べる	注意を引く、理由を述べるという言語の機能について理解し、場面に適切な使用をすることができる。	
		2週	関係代名詞(主格・目的格)	関係代名詞(主格・目的格)の用法について理解し、正しく使用することができる。	
		3週	関係代名詞what	関係代名詞whatの用法について理解し、正しく使用することができる。	
		4週	S+V+O1+O2(O2=how to ~)	S+V+O1+O2(O2=how to ~)の用法について理解し、正しく使用することができる。	
		5週	主張する、賛成・反対する	主張する、賛成・反対するという言語の機能について理解し、場面に適切な使用をすることができる。	
		6週	現在・過去分詞の形容詞的用法	現在・過去分詞の形容詞的用法の用法について理解し、正しく使用することができる。	
		7週	分詞構文1	分詞構文の用法について理解し、正しく使用することができる。	
	8週	分詞構文2	分詞構文の用法について理解し、正しく使用することができる。		
	4thQ	9週	条件を表すif節	条件を表すif節の用法について理解し、正しく使用することができる。	
		10週	関係副詞where/when/why	関係副詞where/when/whyの用法について理解し、正しく使用することができる。	
		11週	It is ... that ~	It is ... that ~の用法について理解し、正しく使用することができる。	
		12週	説明する/言い換える	説明する/言い換えるという言語の機能について理解し、場面に適切な使用をすることができる。	
13週		条件を表すif節	条件を表すif節の用法について理解し、正しく使用することができる。		

	14週	仮定法過去	仮定法過去の用法について理解し、正しく使用することができる。
	15週	ifを用いない仮定法過去(I wish ~, as if ~)	ifを用いない仮定法過去の用法について理解し、正しく使用することができる。
	16週	後期期末試験	今までに学習した内容の到達度について確認する。

評価割合

	試験	平常点	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0